

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 倉敷化工株式会社		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒712-8555 岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630	
本票作成	部署名：ISO事務局				
主たる業種	分類コード	19	業種名：ゴム製品製造業		
事業の概要	自動車用ゴム部品、産業用防振・防音・緩衝機器の製造販売 従業員数861名				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	本社工場		岡山県倉敷市連島町矢柄四の町4630	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 29 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成29年度)	(令和3)年度排出量	目標年度(令和4年度)
	12,189 t CO ₂	8,858 t CO ₂	12,189 t CO ₂
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(令和3)年度排出量
	①	本社工場	8,858 t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂
			t CO ₂

削減目標の達成状況	計画期間：平成30年度～令和4年度(5箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(3)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	0.2 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 ゴム製造業を生業としているため、製造工程において原材料として使用する「練りゴム使用量」を原単位とした。	原単位当たり排出量		
		基準年度	(3)年度	目標年度
		3.579 t CO ₂ /(t)	3.571 t CO ₂ /(t)	3.400 t CO ₂ /(t)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和3年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

CO₂排出量削減について、社内では、毎年各エネルギー管理責任者が目標KPI、削減計画をし、前年度比原単位1%減達成に向けた省エネ活動を全社で実施。活動結果について毎月環境管理委員会で達成率報告した。管理委員会では、実施した省エネ事例を持ち回りで発表し、改善活動の見える化を行い社内共有化を図った。2021年5月には、前総理による「2013年度比率2030年度46%減」の宣言により、中期目標を30%減から46%源に目標変更し省エネ活動を実施した。しかしながら、コロナの影響が日本のみならず、サプライヤーの中国でのロックダウンの影響による生産調整があり、十分な削減効果が得られず、ゴム練原単位前年比1%減は達成したが、基準年からの4%減は未達になりました。

【推進体制】

- ・省エネ法に基づくエネルギー統括者を中心としたエネルギー管理体制のもと、手順書通りに進めてゆく。
- ・ISO14001に基づき、社長をトップとした環境管理体制の下、全社目的目標に省エネルギーを前面に押し出し環境改善をPDCAを回しながら推進して行く。
- ・全社目標から、各エリア目標値に按分し、各エネルギー管理責任者による、省エネ対策、アイテムなどを抽出し、削減活動を全社的に実施。
- ・毎月の環境管理委員会で、全社、各エリアの達成状況と省エネアイテムの削減効果を確認

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
本社工場	<p>前年と同様に新型コロナウイルス対策の為、練ゴム（原単位）とは直接関係のない、空調運用方法を変更し、定期的な窓開け換気を併用した運用による電力増加がありました。また、上海のロックダウン等中国の部品調達においても影響があり、結果として生産減が影響した。</p> <p>(令和3年実施分)</p> <p>■ユーティリティ、設備関係</p> <p>①省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアコン更新（水冷式⇒空冷式） ・未実施場所のL照明LED化 <p>②蒸気利用を各設備に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エアーカーテンの計画的な蒸気供給停止 <p>③換気扇の最適運転の実施（インバータ化）</p> <p>④設備関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タッチパネル等未消灯の設定変更） ・ライン設備の統合 <p>■製造部門</p> <p>①ムリ・ムダを無くす、省エネ活動（不使用時のスイッチオフ）</p> <p>②時間短縮、生産性向上、稼働率アップ</p> <p>(今後実施予定分)</p> <p>■製造時における、稼働効率化、不良低減活動、歩留まり向上等省エネ活動の実施</p> <p>■設備関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラーユニットの更新

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	無	
その他	無	

【その他特記事項】

冷房使用電力削減のため、全社でクールビズに取り組み実施。
 毎年、ライトダウンキャンペーンに参加している。
 昼休憩時の照明OFF（12：15～12：30）
 CO2削減取組として、全社各部門に目標と削減アイテム抽出を施策として実施。
 倉敷化工が単独ではなくマツダグループ全体で国に準じた独自の目標を掲げて削減活動を行っている